会員の広場

天孫降臨は雷電現象か

原　見　敬　二*

ここに登場される建御雷之男神（タケミカヅチノヲノカミ）と正勝吾勝勝速日天忍穂耳命（マサカアカツカチハヤビアメノオシホミミノミコト）については，天気32巻12号：会員の広場で，その御名だけをあげておきましたが，今回も主として古事記を引用して詳述してみます．

正勝吾勝勝速日天忍穂耳命のマサカは真盛り，アカツカチは雷声，ハヤビは電光，アメは天または雨，オシは語の強い意味，ホミミは火の音です．これは全く雷神そのもので天照大御神（アマテラスオホミカミ）の実子で男神でおわします．

この雷神は，高天原（タカマノハラ）を支配する天照大御神の命令で豊葦原中国（トヨアシハラノナカツクニ：日本列島の美称）を治めるため降臨されることになります．しかし，途中の天浮橋（アメノウキハシ：天と地の間に懸っていた橋）から地上を見ますと，中国はざわめき混乱していて，とてもじゃないという具合で高天原へ舞い戻ってこられています．

捲土重来，建御雷之男神は，下界の中国を支配する大国主神（オホクニヌシノカミ）に領土解放を迫って恭順させたのち，天上の天照大御神に，その旨を復命されています．

建御雷之男神とは，伊邪那岐命（イザナギノミコト）が，わが子，迦具土神（カグヅチノカミ）を斬首されたとき，の血刀から生れた八神の中の一柱で，タケは武，ミカはミイカの略で雷，ヅは助詞，チは威霊とされていて，雷の神格化されたものといわれています．

この雷神が降臨されたときの光景は，天上から地上に，はためく雷電であって，電光の色は振り下した刀にキラリと日光が映えるように青白く，紫電一鑌の語が当てはまるようで，別名を建布都神（タケフツノカミ：フツは刀剣のこと）といわれるのも，うなずかれます．

高天原では，次の降下作戦を計画されているときに正勝吾勝勝速日天忍穂耳命に邇邇芸命（ニニギノミコト）が，お生まれになった．勿論，天照大御神の御孫，即ち，天孫であらせられます．

この邇邇芸命が中国を統治されている大国主神から中国を委譲されることになって，日向国の高千穂に降臨なされました．この時の模様は，天上の高天原と地上の中国で共に光り輝いたと記録されています．ご神名も，にぎにぎしいという意味を持っています．この点を筆者は落雷現象とみます．

なお，正勝吾勝勝速日天忍穂耳命が天浮橋から高天原へ引き返されたのは，雲間放電とみられます．

降臨に当たり，天照大御神から天孫ご一行に賜った三大神勅の一つに「斎庭之穂（ユニハノイナホ）の神勅」（日本書紀より）があって，御手ずから稲穂を授けられています．新嘗祭（新穀に感謝する祭り）が行われてきた精神がこれにこもっているわけです．

以上のことは，祖先が雷電に恐怖の念を抱きながらも，雷雨と稲作には密接な関係のあることを経験することによって，雷電に表現される力の存在を信じて，それを神と崇めて，豊作による上代農業社会の平穏を祈願する，ある種の信仰形体を物語るものではないでしょうか．

* Keiji Harami,　神戸　長田神社．

学会刊行物ニュース

日本気象学会　**気象集誌**

第II輯　第64巻　第5号　1986年10月

（詳しい目次は12月号に掲載します）